

市民の声



安曇野市議会 常任委員会を傍聴して

中槇富美恵さん（豊科）

安曇野市になって常任委員会が傍聴できるようになり、3月議会は総務委員会と福祉教育委員会を傍聴した。この委員会を傍聴した理由は、紅二点女性議員がいること。

そして、私の一番の関心事である、社協のお金の使い方、市がどれだけ補助金を出しているのか、適正な使い方をしているのか知りたかったからである。

また、わが地域から出た議員がどんな活躍をしているのか、その他有能な議員がいるのか？等々確認したかったからである。よかった！おもしろかった！勉強にもなったし（請願書の書き方等）、議員を身近に感じることもできた。議員がどのように住民の代表として内容をチェックし、質問をするかということや、それに対する職員の考え方・態度・人柄がよく伝わってきた。こんな委員会を皆さんも是非傍聴していただきたい。

市になって地域の大事なものが失われそうな気がしないでもないが、行政の責任だけにしないで、住民も議員も意識改革し、チェックし合い、夢と希望を持ち、善悪をはっきりさせる私利私欲のない心、それを持ち続けられれば、必ず未来は開けると感じた。

市の将来を皆で考え、それに向かうための取組み、

お気軽に「意見等」お聞かせください。

本郷 敏行
藤森 康友
西澤 韶修
等々力 等
下里 喜代一
草深 温
大月 晃雄
青柳 吉宏
黒岩 宏成
小林 純子
小 林 純子

土地利用・景観形成など、総合計画による「まちづくり」の一步が始まる。子供たちの心の故郷をつくるために、市民みんなで「汗」を流そう。（黒岩）

* 広報編集委員 *

委員長 小林純子
副委員長 黒岩宏成
編集委員 青柳吉宏

編集後記

「穀雨」の20日は朝から降った雨に洗われ、満開の桜に鮮やかさを増した花が見られた。

安曇野のこの時期は、アルプスの白峰と屋敷林の緑に咲く、赤白黄色の花色の田園風景は、美しい日本の原風景だと感じる。

この美しい景観は、自然と人々の暮らしが必然的な調和を成しているものであって、自然と人の暮らしが結びついた風景は、持続されなければと願うばかりだ。

視察報告

みてきいてあるいて

3月27日、28日、安曇野市議会は松本市、南砺市を訪れ行政視察をし、市議会のあり方と電子自治体の内容を研修した。

松本市議会

議会運営と会派構成

議員定数の半数を超える会派はないが、議長・副議長はそれぞれ違う会派から選出され、各常任委員長も会派に按分され、バランスのとれた議会運営と受けとめられた。

一般質問は代表質問制を基本に個人質問を含めた形式で質問者は制限ない。一会派あたり25分（質問のみで答弁は含まない）で所属議員に10分を乗じた時間が与えられている。無所属議員は年間60分である。政務調査費は議員一人あたり年額25万円で使途基準も定めてある。

南砺市

富山県下で先進をいく電子自治体

南砺市は8つの町村が合併して、市制は2004（平成16）年11月1日から、人口6万人、668km²、富山県の南部に位置している。議員は合併特例法を適用し定数34人で3つの常任委員会、3つの特別委員会をつくっている。

富山県下でもすすんだ電子決裁システムを導入し、意思決定の迅速化、滞留状況の把握、ペーパーレス化の実現の効果をあげようとしている。電子自治体のための庁内事務共通基盤システムにより、広大な面積の市をカバーする能力がある一方、設備および管理費のコストがかかっている状況があった。



南砺市にて研修

お詫びと訂正

2月8日発行「安曇野市議会だより」
7ページ2段目 誤「高い視野に立ち」
正「高い視点に立ち」
10ページ4段目 誤「自治体フォーム」
正「自治体法務」
18ページ3段目 誤「平成18年9月」
正「平成18年4月」

お詫びして訂正します。